

## 聴覚障がい者デイサロン開催

11月11日(月)に、勝山市教育会館において、奥越地区聴覚障がい者デイサロンを開催し、4名が参加され、奥越聴覚障害者協会長の前田喜啓氏も出席されました。

従来デイサロンを開催してきた方々3名の協力



を得て、当法人職員3名が支援し、血圧・体温・酸素値の測定に引き続き、血圧の知識と歯磨きの重要性について注意等の講話を聞き、大変参考になりました。

レクリエーションでは、椅子に座ったままで

行うチェアサッカーと、紙風船団扇あおぎリレーで楽しみました。

地元の参加者による飛び入りのクイズもあり、大変楽しいひと時を過ごしました。

12月23日(月)には、サンドーム福井管理研修棟で、丹南地区聴覚障がい者デイサロンを開催しました。

従来のデイサロン担当の方々2名と、当法人職員3名が支援し、自分では通うことができない高齢者を当法人の公用車で送迎し、介護介護タクシーで参加された人もいました。

当日は4名が参加され、鯖江市聴覚障害者友の会長の丸山佳男氏、越前町聴覚障害者協



会会長の齋藤さだ子氏も出席されました。

水分補給の重要性についての講話に引き続き、卓球バレーを行い大変楽しく交流をすることができました。

1月は福井市で、2月は坂井地区で、3月には嶺南地区でデイサロンを開催予定です。

65歳以上の高齢者を対象に、公用車での送迎もいたします。



## 手話奉仕員・手話通訳者養成指導者会議

10月22日(火)14:00～17:00に県社会福祉センター1F大会議室において、手話奉仕員・手話通訳者養成講座指導者会議を開催いたしました。

県内の手話奉仕員養成・レベルアップ講座と、手話通訳者養成講座・ステップアップ講座ならびに、講師連続講座研修派遣についての説明を行いました。

また、9月7日(土)と8日(日)に福井で開催された、手話奉仕員・手話通訳者養成担当講師北信越ブロック研修会の報告もありました。

引き続き、当法人委託の手話奉仕員養成・手話通訳者養成等実施要項(案)について、協議を行いました。

その後、養成のあり方や指導方法について情報意見交換を行い、活発な論議が繰り広げられたため、前回2時間だったものを3時間に延長しましたが、結局時間切れとなってしまいました。

次回の指導者会議は令和2年1月もしくは2月に開催いたしますので、12月10日までにいただいた要項(案)に対するご意見を同封して、案内書をお送りいたします。

令和2年度の養成講座の計画もご協議いただく予定なので、一人でも多くの指導者にご参加くださいますよう、お願いいたします。

## 県ろうあ協会が110番アプリとながら運転厳罰化を生活教室で



令和2年2月15日(土)に、県社会福祉センターにおいて、聴覚障がい者がスマホや携帯電話(ガラケー)で110番に緊急通報ができる「アプリケーションソフト」をダウンロードして、警察署に登録する聴覚障がい者生活教室を開催します。

午前中に、スマホやタブレットおよびガラケーのダウンロードとインストール準備をしておいて、午後から県警察本部より講師をお招きして、実際に登録してみるという企画です。

また、「ながら運転厳罰化」の講話も、併せてうかがう予定です。

詳しくは、当法人のホームページや県ろうあ協会機関紙「福井ろう苑2月号」でご案内いたします。



## 派遣登録手話通訳者・要約筆記者研修会

当法人の登録手話通訳者と登録要約筆記者・奉仕員の研修会を開催いたします。

手話通訳者の研修は、3月1日(日)10:00～16:00に県社会福祉センター1F大会議室において、講師に東京都手話通訳派遣協会の渡辺さなえ氏をお迎えし、開催いたします。

要約筆記の研修は、3月14日(土)～15日(日)に、全国要約筆記問題研究会より松井美智子氏を講師にお迎えし、開催いたします。

詳しくは、個別にご案内をお送りいたしますので、ご都合をお繰り合わせいただき、是非ともご参加ください。

## 電話リレーサービスが総務省の公共サービスに

2021年4月から、総務省が公共のサービスとして、通信各社のユニバーサルサービス料を利用して、電話リレーサービスを提供する方針が明らかになりました。

- ① 24時間サービス
- ② 利用者は、テレビ電話のデータ通信料や手話通訳者と聞こえる人との通話料を負担。
- ③ 手話通訳の person 費やシステムの整備費用は固定電話・携帯電話の契約者が一律に負担して賄う。(ユニバーサルサービス料月2円中負担額は1円程度)
- ④ 今後、警察や消防への通報も含める方向で制度や仕組みを整える。

ことが大きな特徴となっています。

「ふくい風第23号」でもご紹介したように、公益財団法人日本財団が2013年から開始した電話リレーサービスは、民間企業3社と沖縄県、熊本県、滋賀県、千葉県との4県の聴覚障害者情報提供施設が担ってきました。

2018年度より厚生労働省の補助事業として、岡山県、京都市、大阪府、富山県・長野県、福島県、宮城県、札幌市の聴覚障害者情報提供施設でも、サービスを開始したところです。

しかし、2021年3月で現在の厚生労働省による手話と文字による電話リレーサービスを、終了することがアナウンスされています。



総務省が、現在の日本財団のアプリを引き継ぐのか、新たなシステムを構築して利用者は登録しなおすのか、現時点では不明ですが、厚生労働省の手を離れるということは、通信の保証であって福祉的支援とは切り離されることが予想されます。

聴覚障害者情報提供施設が、365日24時間体制でサービスを提供することは困難だと思われるので、民間企業が電話リレーサービスを担うこととなるでしょう。

警察や消防・救急への通報も含まれるようになると安心ですが、結局現場には派遣制度が不可欠ですし、手話・文字のオペレーターの養成と雇用が課題となるのは間違いありません。

## 手話サポートテレビ電話システム店舗が増加

全国のドコモショップにおいて、スタッフの説明をテレビ電話で手話通訳のサービスを受けられる店舗数が、653(2019年11月末現在)に増えたと案内が届きました。

利用可能な時間は対応店舗の営業時間内ですが、福井県内では大和田中央市場前店・二の宮店・敦賀店となっています。

Docomoの携帯電話かスマートフォンを利用している人が対象ですが、当協会事務所にチラシがあります。



## 耳の日記念フェスティバル 2020

今回の企画担当は、県ろうあ協会・県聴覚障がい者と親の会・県手話通訳問題研究会の当番で、聴覚障がい児は、ろう学校では卓球しか部活動がなく、インテグレートした学校で部活動に参加しても情報保障がなく団体競技を楽しむことができないため、スポーツをテーマに開催することとなりました。

3月8日（日）に県社会福祉センター4F 第1・2研修室において、講師にデフリンピックサッカーの事務局長をお迎えし、デフスポーツの意義をご講演いただく予定です。

また、デフリンピックサッカーの日本代表選手としてトルコで出場した鯖江市の山森裕介氏と、デフバスケットボール U21 国際大会でアメリカおよび世界選手権の選手としてポーランドに出場した、鯖江市の丸山香織さんをゲストにお迎えし、体験談をうかがいます。

さらに、2F 体育館で聴覚障がい児を対象にデフスポーツの体験を行う予定です。

全日本ろうあ連盟では、デフリンピック 2025 の日本開催を目指して運動中でもあります。

耳の日フェス 2020 について、詳しくは案内書を作成しますので、一人でも多くの方にご参加くださいますようお願いいたします。

## ビデオライブラリー室をご利用ください



当センターでは、聴覚障がい者向け字幕・手話入りビデのライブラリー貸出事業をおこなっています。

貸し出しの際に DVD やビデオテープを再生してみて、選ぶことができるようにデスクとパソコンを設置しています。

ライブラリー室には約 4,000 本の DVD と VHS ビデオテープがあり、収納しきれない分は地下に約 2,500 本保管してあります。

また、簡単な資料作成やインターネット検索にも、パソコンをご利用いただくことができます。

健聴者でも、DVD と VHS テープおよびパソコンの貸出しできますので、一度のぞきにきてみませんか。

日曜・祝祭日と火曜日がセンター定休日となっていますが、行事によっては変更の場合もあります。



## 手話通訳者・要約筆記者全国統一試験

12月7日（土）に手話通訳者全国統一試験が実施され、福井県からは 27 名の申し込みがあり、24 名が受験しました。3月2日（月）に結果発表があります。

全国統一要約筆記者認定試験は 2月16日（日）に行われますが、23 名の受験申し込みがあり、手書きのみが 9 名、パソコンのみが 7 名、両方受験が 7 名となっています。合格通知は 3月23日（月）です。手話通訳者・要約筆記者とも県知事認定の資格を得ることとなります。